# いわて マナビィ マガジン

No.236 （令和３年度第21号） 2022.2.25

## 「岩手県生涯学習推進研究発表会」
## 岩手の人づくり・つながりづくり・地域づくりフォーラム2021
## をオンライン開催しました！

２月３日・４日に「岩手県生涯学習推進研究発表会」（岩手の人づくり・つながりづくり・地域づくりフォーラム2021）を開催し、２日間で164名の方々にご参加いただきました。

当初、参集型とオンライン型を参加者が選択できる（いわゆるハイブリッド型）形式で計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、１週間前に急遽オンラインのみでの開催とさせていただいたため、ご参加（予定）の皆様方には大変ご迷惑をおかけしました。

発表会当日は、例年になく好天に恵まれ、道路状況も良く、オンライン開催がもったいないような感じでした！

### ◆事例発表・協議「障がいのある人の生涯学習の場づくりにむけて」

１日目午前は、「卒業しても学びたい『わたしの場合』」、「障がい福祉分野における 福祉教育実践について」、「知的障がいのある成人の生涯学習スクール『ピュアフレンズ』」と題した３つの事例を発表いただきました。

〇ぽけっとの会
　～重い障がいがある子供たち・人たちの地域生活を豊かにする会～
　　三浦 かおる 氏　三浦 りん さん

〇宮古圏域障がい者福祉推進ネット（レインボーネット）
　事務局次長　主任相談支援専門員　高屋敷 大助 氏

〇知的障がいのある成人の生涯学習スクール「ピュアフレンズ」
　青森県弘前市教育委員会中央公民館　総括主査 柴田　浩 氏
　ボランティアスクール“虹の会”　代　表 安田 政英 氏

### ◆講演「障がい者の生涯学習を考える」

１日目午後は、神戸大学教授　津田　英二　先生に「障がい者の生涯学習を考える」と題してご講演をいただきました。大学での実践や様々な委

員として取り組んでいる内容について具体的にご説明いただきました。多様な事例を交えてのお話に、参加者から「講師の先生の実践が素晴らしいと思った」「共生社会を考えるよい機会となった」「講演では、丁寧に分かりやすく説明していただきとてもよかった」などの声が寄せられました。

◆当センターの研究成果を発表

２日目の研究発表では、「社会教育における ICT 活用のあり方に関する研究」を　高橋　啓　社会教育主事が、「障がい者の生涯学習推進のあり方に関する研究」を　阿部　貴弘　社会教育主事がそれぞれ発表しました。

その後協議を行い、最後に、協議の進行をしていただいた岩手大学名誉教授　新妻　二男先生からそれぞれの発表に対するご助言とコメントをいただきました。

【障がい者の生涯学習推進のあり方に関する研究結果（２年研究概要）】

１　アンケート調査協力

県内 33 市町村の生涯学習・社会教育を主管する部局の担当者

２　訪問調査協力

- ぽけっとの会～重い障がいがある子供たち・人たちの地域生活を豊かにする会　三浦かおる氏　三浦りん氏（一関市）
- 岩手大学学生特別支援室（盛岡市）
- 岩手県立大学教育支援室（滝沢市）
- 久慈地域卓球バレー協会（久慈市）
- 知的障がいのある成人の生涯学習スクール「ピュアフレンズ」
- ボランティアサークル“虹の会”（青森県弘前市）
- 青森県弘前市立中央公民館

３　研究の概要

障がい者の生涯学習推進のあり方について、国際的、国内的な動向を整理するとともに、県内各市町村にアンケート調査を行うことにより障がい者の生涯学習推進の現状と課題を把握し、障がい者の生涯学習推進に求められる視点を析出した。加えて、多様な実践事例を調査しどのような視点がより活かされているのか、また、公的社会教育が障がい者の生涯学習をどのように推進していくべきなのか分析、考察を行った。

（１）国際的、国内的な動向

2006 年に国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」に、「障害者の生涯学習を確保すること」が明記された。学校卒業後も生涯を通じて多様な学びの機会が確保されることが重要である。

（２）アンケート調査

障がい者の生涯学習を推進するためには「障がい・障がい者理解の促進」「関係機関・関係団体との連携」「障がい者の生涯学習に向けた体制の整備」の３つの視点が重要である。

（３）事例調査

障がい者の生涯学習活動は、本人や保護者、支援者の想いや願いによって取り組まれていた。また、障がい者の生涯学習推進に必要な３つの視点がすべて含まれており、加えて調査を通じて４つ目の視点が明らかとなった。

## ４　障がい者の生涯学習を推進するために

- 障がい者の生涯学習を推進するためには「障がい・障がい者理解の促進」「関係機関、団体との連携」「障がい者の生涯学習推進に向けた体制整備」「学習ニーズと方法の把握」の４つの視点が重要である。
- 公的社会教育が多様な関係機関や団体と共に障がい者の生涯学習推進に向けた連携会議を実施することや、障がい・障がい者理解や共に活動する場づくりを積極的に、または後方支援的に積み重ねていくことが必要である。
- 在学中から生涯学習意欲を高めることや、地域とのつながりづくりが重要である。
- コミュニティ・スクールが障がい者の生涯学習推進に果たす可能性がある。

◆参加者の声より

- 障がいのある人の学びについては、共生社会を考える上でとても大切なことであると改めて認識した。社会教育における ICT の活用のあり方についても、コロナ禍にあって情報格差が広がっている現在だからこそ、考えていくべきだと感じた。
- ICT を活用した社会と社会教育につないでいくための課題、障がい者の生涯学習を社会教育の視点からどう見ればよいのか、また、どのような形で実践しているところがあるのか、じっくり学ばせていただいた。

◆参加者評価等(一部を紹介)（オンライン回答数　約 60 件）

- この発表会への参加は初めてか？

| | |
|---|---|
| 今回が初めてである | 48.3% |
| 初めてではない | 51.7% |

- 年代は？

20 代　3.4%　　30 代　8.5%　　40 代　50.8%

50 代　28.8%　　60 代　6.8%　　70 代以上 1.7%

- 立場や所属は？

| | |
|---|---|
| 市町村・県の生涯学習・社会教育関係者 | 32.8% |
| 生涯学習・社会教育関係機関及び団体関係者 | 15.5% |
| 市町村・県の地域づくり関係者 | 5.2% |

| | |
|---|---|
| 保健福祉関係者 | 1.7% |
| 学校関係者 | 32.8% |
| NPO法人等民間団体関係者 | 5.2% |
| その他（県総合教育センター、他県） | 6.8% |

・研修会全体の評価は？

| | |
|---|---|
| Ａ：有意義 | 79.7% |
| Ｂ：どちらかといえば有意義 | 20.3% |
| Ｃ：あまり有意義でない | 0% |
| Ｄ：有意義でない | 0% |

当センターでは、今回の発表会の成果を発信しながら、引き続き「障がい者の生涯学習推進」や、「社会教育におけるICT活用」に取り組んで参ります！

各市町村におかれましては、事業や調査等にご協力等、本当にありがとうございました！

## 研究発表会の舞台裏紹介！

今回の県生涯学習推進研究発表会は、発表内容やオンラインでの運営方法についてたくさんのご反響をいただきました！

その舞台裏を少々紹介させていただきます！

Ｑ　研究はどのような年間スケジュールで行っているのですか？

Ａ　主担当者２名が、研修事業等の業務と並行しながら、アンケート調査・訪問調査・分析を行いながら２月の発表会に向けて研究・原稿執筆・パワーポイント作成等を進めます。岩手大学名誉教授の新妻二男先生に、月１回程度のご指導・ご助言をいただきながら、当センター全体としてのチーム研究として進めています。

Ｑ　どのような方々が発表会に参加したのですか？

Ａ　市町村・県の生涯学習・社会教育関係者が中心となりますが、今回は学校関係者も多く参加しました。保健福祉部局や地域づくり部局からの参加もあり、ＮＰＯ関係者や遠くは山梨県・熊本県等県外からの参加もありました。

Ｑ　ライブ配信は、どのような部屋で行っているのですか？

Ａ　当センター内にはスタジオがあり、そこで撮影等を行っています。機材の設置や接続、操作は所員のみで行い、時には悪戦苦闘しながらがんばっており、ミニテレビ局の様相です。

Ｑ　司会者・発表者の背景（画）は、どのように作成しているのですか？

Ａ　スタジオ内には、所員手作りのパネル（緑色）を設置し、アナウンサー等の背景としています。また、デジタルでも背景画像を作成し、研究発表・協議等の背景としています。

Ｑ　講師や発表者、主催者などはどのような場所で、どのようにつないでいるのですか？

Ａ　講師・発表者は、勤務先又は自宅よりそれぞれZoomで当センターと接続し、そこから皆様にYouTubeで配信しました。主催者（県教育長）挨拶は、県庁で事前収録し、新妻先生には当センターに当日お越しいただいて、協議の進行・助言・コメントを行っていただきました。
（まさに、１つのテレビ番組を作成するような方式で行いました。）

Ｑ　何人くらいのスタッフで運営しているのですか？

Ａ　６人の（主任）社会教育主事で、研究発表２名、司会１名、時間管理と撮影現場指示監督、カメラ及び機器操作、講師等とのリアルタイムでの連絡調整を計３名で行っています。研究発表者が発表後に、即時にカメラマンに変身したりするなど、実はなかなか厳しい状況でした。

次年度の研究とも関連して、「ICTスキルアップ研修講座」を開催し、機器の接続方法等についても取り上げていく予定としておりますので、ぜひご参加ください！

【生涯学習電話相談「マナビィコール」】
研修会・講師情報等のお問い合わせ等は下記までお気軽にどうぞ！
当センターで行っている「学び」全般の相談ダイヤルです。
↓↓↓↓↓
http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/soudanshien/manabiikoru.html

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||
▶ご意見・ご感想、登録・登録解除等は下記アドレスまで
⇒　E-mail；mag-manabee@pref.iwate.jp

▶生涯学習・社会教育関連情報は当センターＨＰから
⇒　http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/

▶ 当センターの情報をSNSにて配信中
【Facebook】https://www.facebook.com/manabinetiwate/
【 Twitter 】https://twitter.com/manabinetiwate Facebook・Twitter

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||iwatemanabeemagazine||||||
発 行：岩手県立生涯学習推進センター （花巻市北湯口2-82-13）
編 集：菊池 一洋